

(株)高橋建築研究所

福島県二本松市亀谷1-278-2
TEL.0243-22-0596 FAX.0243-22-6133
http://imagine.net/

代表 インタビューー
対談 高橋 修二 × 萩原 流行
[俳優]



INTERVIEW
KENJI TAKAHASHI × NAGARE HAGIWARA

コストと無駄を抑え、人と地球に優しい省エネルギーの家造りを実践する



高橋 復旧・復興が心より待たれる福島県を活動エリアにされている(株)高橋建築研究所さんをお訪ねしました。一級建築士でもある高橋代表ですが、若い頃から建築の世界に身を置いてこられたのですか。

萩原 父が建設会社を営んでいたこともあり、早くから設計に関心を持っていました。父の経営する「高橋工務店」とは別に「高橋建築事務所」を構え、若い頃は建築と設計の両方を担当していたのですが、父の他界を機に「自分の好きなことに専念したい」と思い設計にウエイトを置くようになりまし

た。従業員が十人前後いた時期もありましたが、従業員を抱えることも育てる期間が必要になりますし、採算の合わない仕事でも無理して受けざるを得なくなってしまうんです。

高橋 会社である以上、お給料も払わないといけないからですね。

高橋 おっしゃる通りです。しかしそれは悪循環になり、ただ造っているだけでは忙しいだけの実がありません。そこで、現在人を雇用せず私が設計・管理を、協力して頂く即戦力のブレインの友人達に建築など

をお願するシステムを取っています。他にもツーバイフォープレカット業務や高気密・高断熱・換気システムなども手掛けています。一時期はプレハブメーカーのプレカットも受けていましたが、値段面でやればやるほど苦しくなるため、現在は自分が考えたプレカットのみを行なっています。

萩原 同じ会社も多い中で、御社の特徴、強みといますか。

高橋 私はアメリカのフランク・ロイド・ライトに影響を受けましたので、そういう感じの建物が多くなりますね。具体的に言いますと、一般的な建物は十年過ぎると色褪せてしまい古臭い感じになりがちですが、私が手掛けた店舗などは二十年経っても良い味が出てくるような雰囲気を出しているかと自負しています。もちろんお施主様のご要望に合わせる部分もありますので、ひと通りすべてでできるように視野も技術も幅を広げる努力を重ねてきました。

萩原 葬祭場の施工写真を拝見して、夕景の中に立つ美しさに感心しました。

高橋 憩意にさせて頂いているお客様の仕事でしたが、高台の上にホールを造り、その周囲にある池に山が反射して見えるような工夫を施しました。夕映えも美しく、葬儀場全体が見栄えがします。建物だけではここまで美しさを出すことは難しいですが、こういうお仕事をさせて下さるお施主様がいらっしゃることに感謝しています。

萩原 設計士冥利に尽きますね。一般住宅の施工写真も素敵ですが、住宅造りの上で重視されていることも教えてください。

高橋 コンセプトに掲げているのは「地球に優しい自然と生活を考えた家造り」です。私の持論として「寒くない家、極力熱を出さず消費せず、そしてエネルギーのロスを少なくする建物を作るべき」ということ

があります。ツーバイフォー工法に力を入れているのも地球に優しい家造りの一つだからですが、建材などは必要最小限にし、「ゴミをできるだけ少なくすること、不要なものを買わない、使わないこと」で資源を大切にすることも努めています。また高気密・高断熱・換気システムを採用することで、隙間風が入らず熱を逃がさない空気計画や熱消費を少なくした効率暖房などを提案しています。加えて、所有するツーバイフォーのプレカット工場加工した木材を使うことでコストも抑えられます。

萩原 施主サイドとしては嬉しいことづくしですね。では、お客様に接する上で気を付けておられることも教えてください。

高橋 特に意識をして気を付けているわけではありませんが、お互いのコミュニケーションは大切ですね。ご要望をよく伺い、一口としての提案もさせて頂いて、一緒により良い建物造りを目指しています。

萩原 ところで、代表は多趣味だと伺いました。

高橋 特技は空手で自分の道場も持って四十年ばかり指導もしてい

ますが、近々四段の試験を受けます。歌も好きで、カラオケやシャンソンを習っていたこともあり、人に聴かせられるレベルではありませんが笑、発表会の延長でCDも出しました。また、陶芸も趣味でこちらは知人が窯を譲ってくれることになり楽しみにしています。そして、「良いも悪いも含めて日々の出来事を忘れてしまふのはもったいない」と絵日記を十年ほど続けていますが、日記に書くのはすべて過去の事柄ですよね。それでは後ろ向きになるので、将来に向けた予定も別に書くようになりました。

高橋 記録がすべて残っているため、十年後くらいにはこれまでの人生を振り返る回想録を出したいという気持ちもあります。また、最終的な夢として「行く行くは自分で設計・施工を手掛けた自分の美術館を建てたい」という構想を温めています。二十年后には実現できれば幸せですね。

萩原 夢の実現に向け、お仕事に興味に実り多き日々をお過ごし下さい。

① INFORMATION

自然環境を考えた設計を提案します

